



高山西ロータリークラブ

# 例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分區 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「ラッセン風ジンバイザメ」 蜘蛛 康介

## ＜会長の時間＞

それは私が高山の病院に赴任して3年日の昭和50年3月31日の事です。整形外科の副院長から院内の医師全員に、重大発表



があるので午後7時に医局に集まるよう緊急通達が出されました。院長を除いた全医師が集まったところで、これは極秘事項なので当分口外しないようにという前置きで「4月1日から現院長は名誉院長になり私が院長に就任します。」と簡単な発言で解散となりました。この発表がどれほどの重大なものになるか私にはわかりませんでした。副院長白身も全然予測できなかつたと思います。私の運命というか人生も大きく変わることになるとは予測できませんでした。私は自宅に戻り女房に明日から院長交代だよ、一応極秘事項だからほかの人には言わないように、と口止めはしました。下っ端職員にはだれが院長だろうと関係ありません。当然私の仕事内容は今までと同じで変化はありませんでした。

この発表に至るまでには水面下で相当な時間をかけた交渉があったと思います。この病院の院長のポストはもともと名古屋大学第一外科に属するものでした。院内での最大勢力は外科であり売り上げは外科が最大でした。ところが整形外科の副院長が腰痛に対して新しい手術方法を開発して、それがとても評判になり日本各地から患者さんが集まるようになっていました。本来整形外科は2人体制でしたが副院長をやって5、6人の医師が集まり、売り上げが外科を追い越す勢いになっていたようです。そうすると必然的に病院全体を牛耳る権力がほしくなるというものです。現在は院長になると赤字解消に奔走しなくてはならないので、大変な重責で見合うほどのメリットはないようですが、このころの院長には相当のメリットと権力があつたのだと思います。この院長交代劇は、院長以下我々外科のスタッフはもちろん名古屋大学第一外科を抜きにして画策されたものようです。大学の第一外科では寝耳に水であつたらしく、ただちに整形外科との交渉が始まったようです。石田光成の三日天下ではありませんが、間もなく新院長は解任されました。それと同時に名誉院長の病院内への立ち入りが禁止されることになりました。

私の上司も次々に辞めていき、何時の間にか外科のスタッフは私以下新人二人になっていました。これは会社で言えば、社長、部長、課長が退陣して係長以下新人二人が取り残されたようなものです。整形外科は全員総引き揚げして、大学から代務の医師1名が赴任していました。内科は副院長他2名、産婦人科医一名。医師は総勢8名です。病院全体は経営的には破綻状態だつたと思います。医師以外の職員は、病院が潰れるのではないかと噂しているようでした。私ども外科では7人の医師が3人になったので、物理的には目の回るような忙しさでした。私が外科の陣頭指揮をとらざるを得なくなっていました。千手観音とか火事場の馬鹿力という言葉があるということは、人間にはその環境に応じて対応する能力が内在しているということではないでしょうか。

## ＜幹事報告＞

◎ガバナーより

・会員増強表彰状

田中 武 様



＜受贈誌＞

鈴鹿RC(インターアクト

年次大会報告書)、社団法人高山市文化協会(広報高山の文化)

## ＜出席報告＞

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	祝日休	会のため	補正	ありま	せん
本日	43名	—	43名	51名	84.31%

## ＜高山RC新会員紹介＞

角竹会長より新入会の方をご紹介します



中部電力(株)  
高山営業所長  
松山 茂様  
(株)NTT西日本-東海  
高山支店長  
福井 辰弘 様

奉仕を通じて平和を

# 例会報告



## 年次総会

2013～2014年度 役員・理事候補者についてご承認いただきましてありがとうございます。皆様のご協力を心からお願いいたします。  
会長エレクト 山下 明

## <本日のプログラム> お祝い

### ◎会員誕生日 (当日欠席)

垣内 久男 12. 2、向井 公規 12. 21

### ◎夫人誕生日

挾土 貞吉 輝子 さん 12. 12  
長瀬 達三 佳奈子 さん 12. 3  
井上 正 麻里亜 さん 12. 24

### ◎結婚記念日

堀川 和士 S55. 12. 3  
鴻野 幸泰 S61. 12. 1  
大村 貴之 H12. 12. 25  
遠藤 隆浩 H23. 12. 30

### ◎出席表彰

小林 勝一  
7年

### ◎在籍周年記念表彰

ナシ

### ◎3ヶ月表彰

・大村 貴之 ・小田 博司 ・小林 勝一 ・塚本 直人  
・平 義孝 ・堀川 和士 ・山藏 真輔



## 会員スピーチ

井上 正



10月より西ロータリークラブにてお世話になり、入会以来皆様には暖かく見守っていただき、また、お声掛けやお誘いを戴きありがとうございます。いつも多くの先輩方に前に緊張する機会であり、

今までとは違う経験をさせて戴いておりますが、どうぞ末永くご指導いただきますようお願いいたします。

私は昭和45年6月15日、高山市西町にて井上 光、井上 静子の4男としてこの世に生を戴きました。井上家は男ばかり4人という家庭で、私は二郎性双生児で産まれましたので、特に父母は大変な子育て時期であったと思います。ちいさいころの思い出は、月末になると父と母が資金繰りのことで言い合っていたことを記憶しています。決してさみしい思いやひもじい思いをしてきたことはありませんでしたが、その分、二人が一生懸命に井上家と井上工務店を支えていたのだと感じていました。

また、よく旅仕事に愛知県・三重県はじめ各所に行っており、よくついでにきました。そのなかで印象に残っていることは父が自分で住宅見学会のチラシを手書き、グラブリで作り、会社の大エさんと共に見学会を行っていたことです。父は職人ですが、気難しいといわれる方も笑顔で対応し、仕事を戴き、全国どこへでも行っていました。笑顔を絶やさず相手のことをしっかり見て、そのとき、その相手に適切に話をする姿は、私の仕事・人生の師であり、決して超える事の出来ない、私にとって偉大なる父です。また、一緒にお風呂に入ると村田英雄の「人生劇場」をよくうたっていました。「やるとおもえば どこまでやるさ これが男の魂じゃないか 義理がすたれや この世は闇だ なまじ止めるな 夜の雨」このフレーズをいつもうたっていました。なにか、言い聞かせるように歌っていたことを思い出します。

少し話は変わり、自分の仕事について少しお話ししたいと思います。大学を卒業し、岐阜の市川工務店さんにお世話になりました。その間、建築・土木の営業のほか、下呂温泉のパストールという会員制ホテルにて約1年間、計約2年半お世話になりました。特にホテルでは1年に3日くらいしか休むことなく、早朝から深夜までずっと働かせていただきました。フロント・予約・営業・サービス・布団敷き・企画、なんでも遮二無二取り組ませていただきました。その時、まだまだ若く至らない私を小川弘社長に、帝王学としていろいろなことを教えて戴きました。グループ会社併せて数百名の会社のトップにいろいろなことを共にさせて戴く時間はとてもありがたく、その時頂いた教訓を決して忘れることなく今の自分があると思っています。小川社長には感謝してもしきれない思いです。

そののち、父の経営する井上工務店に入社させていただきました。今に至る間、多くのお客様、協力業者皆様に支えて頂いた日々ですが、私にとって最も印象に残る現場はやはり入社後初めての現場であった飛騨の里、国指定重要文化財 旧若山家の解体移築工事に約3年間携わったことです。この工事は松倉中学校すぐ南に移築されていた建物を飛騨の里に再移築するという工事でした。現場経験もほとんどない中、このような大仕事を担当することとなり、とにかくがむしゃらに取り組みました。建物を5400の部品に番付を全て取り付けて丁寧に解体し、極力現存のままにしながら施工していくという、気の遠くなるような仕事でした。設計監理となられた文化財建造物保存技術協会の所長、監督も大変厳しい方で、泣きなが

奉仕を通じて平和を

# 例会報告

ら仕事をしたことも有りました。しかし、この経験はまさに石の上にも3年ということわざ通り、自分に、建物に、歴史に向き合う経験であり、私の胆識を養うにはとてもいい経験でした。飛騨の里は井上工務店が初めて公共工事を受注させて戴いた旧田中家を始め、大野家、西岡家など、ほとんどの家屋の修繕や茅葺を手がけさせていただきました。私も若いうちにこの経験をさせて戴いたお陰で、今でも全国各地の茅葺工事も手掛けさせていただいております。

また、その飛騨の里が縁で妻と出会い、平成10年4月に妻と結婚式を飛騨の肌で挙げさせていただきました。この歴史的建造物の縁は、祖父であるハ野忠次郎も大きくかかわっています。祖父は高山陣屋の復元を始め、屋台や社寺仏閣の修復に関わってきました。私たちにとっては優しい祖父でしたが、とても自分に厳しく、仕事にも一途な祖父でした。

今、私は町家再生・住替え支援活動を、NPOを設立して地道ではありますがしています。それは、これまでの私自身をはじめとする経験や人生の中で、次代に遺すべき技術・景観・まちなみ・そして、そこに住まう人の大切さを少なからず感じているからに他なりません。これまで2年間の活動の中で、町家現況調査や聞き取り調査、データベースの作成、住替え支援相談を行っています。また、データベースは約1500戸を作成しています。その中で、町家に居住される方へのアンケートで、家屋への居住を継承する方は見えますかという質問をさせて戴いたところ、なんと約4割が不在という回答がありました。その家屋は、どれも築100年前後のしっかりした建物ばかりです。

私は不動産という生業をさせて戴っていますが、こうした建物の保全や利活用、そして、ひとつひとつの取り組みは仕事の域ではなく、ライフワークとして取り組まなければならないという強い危機感を持っています。飛騨高山はこの歴史的景観とそこに住まう方が見えてこそその良さを残していると思いますし、このまま何もしないで時間が過ぎていく事は「職と住のバランス」がますます崩れていくばかりか、これまでの蓄積された飛騨高山の文化歴史伝統を失うことになりかねないと考えています。

地元のいろいろな方と今後も議論をしながら、町家の再生・保存について取り組んでいきたいと思っております。

## <ニコニコボックス>

### ●高山RC 会長 角竹 邦雄さん

本日は新会員の方々を紹介させていただきます。

### ●高山RC 福井 辰弘さん

高山ロータリーの福井です。今年の7月より入会した新人でございます。高山西ロータリークラブの皆さん、よろしくお願いいたします。

### ●高山RC 松山 茂さん

高山西ロータリークラブの皆さん、本日はよろしくお願いいたします。7月に入会した新人ですので色々アドバイスをお願いします。

### ●折茂 謙一さん

本日は角竹さんはじめ福井さん松山さんようこそ。ありがとうございます。

### ●米澤 久二さん

・高山ロータリークラブ角竹会長、福井さん松山さん、ようこそいらっしゃいました。

・新田さん、お帰りなさいませ。今後よろしくお願いいたします。

### ●新田 敬義さん

長い間休ませていただきありがとうございました。また仲良くお願いします。

### ●井辺 一章さん

・角竹さん、松山さん、福井さん、ようこそおいで下さいました。

・新田さん、お帰りなさい。休会中はどうでしたか？

・本日のスピーチ、井上さん宜しくお願いします。

### ●井上 正さん

今日は私のつたないスピーチをさせていただきます。緊張しておりますが、どうぞ最後まで宜しくお願い申し上げます。

### ●阪下 六代さん

本日は井上正さんのスピーチということで、どんな話をされるのか楽しみで、隣の席にいてプレッシャーをかけている所です。

### ●東 庄豪さん

新年家族例会の余興の練習、二人の美人講師に手とり足とり、いい汗かいています。どうぞお楽しみに。

### ●河尻 浩次さん

12月9日(日)朝10時から、BS11チャンネルの「賢者の選択」という番組で大垣共立銀行が紹介されます。また来週11日(火)夜10時から「ガイアの夜明け」にも登場しますので、是非皆さんご覧いただけます様宜しくお願いします。

### ●長瀬 達三さん

先日は家内の誕生日にステキなお花をありがとうございました。

### ●小林 勝一さん

出席7年の表彰ありがとうございました。今日は早退します。

### ●●●● 一期一会

### 遠藤 隆浩

先達て下呂のIMLにおいて、元東京地検特捜部長の熊崎勝彦氏（下呂市出身）の講演を聞かせていただいた。まず熊崎氏の放つオーラとその威厳に満ちた風貌に驚きを感じた。熊崎氏といえはあの金丸信の脱税事件で金丸氏に事情聴取をし、同日逮捕に踏み切ったことで有名である。地検特捜部は佐川急便事件で痛目にあっているもので必死であった。金丸氏は清濁併せのむタイプの政治家で一方では国士とも言われる。その大物政治家から自白を引き出すには聴取する側にもそれなりの「人間力」が当然必要であり、熊崎氏の話でもいわば敵同士でもあるけれど金丸氏との間にそれなりのお互いを認め合う何かを感じあえて初めて自白をひきだせたであった。自分も仕事で日々感じるのはまず相手との人間関係が大事だということだ。親の後を継いだ自分にとって最近難しいなとおもうのはそのころであり一番の課題でもある。

奉仕を通じて平和を